

6 3 6 1 - 9 3 8  
平成18年12月22日

各関係機関の長  
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成18年度病害虫発生予察注意報第10号について  
平成18年度病害虫発生予察注意報第10号を発表したので送付します。

## 平成18年度病害虫発生予察注意報第10号

平成18年12月22日  
宮 崎 県

病害虫名	ハダニ類
作物名	イチゴ
1 発生地域	県下全域
2 発生時期	本圃収穫期
3 発生量	多

### 4 注意報の根拠

- 1) 12月中旬の巡回調査における発生面積率58.3%（平年38.4%）、寄生株率25.3%（平年7.4%）、葉当たり虫数7.8頭（平年1.4頭）は、いずれも平年より多である。
- 2) 平成18年度病害虫発生予察注意報第8号（平成18年10月24日付け）において、本虫の多発生状況について注意を喚起し、防除を促したところであるが、依然として多い状況が続いており、今後さらに増加が懸念される。
- 3) 向う1ヶ月の長期予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本虫の増殖に好適な条件が続くと考えられる。（鹿児島地方気象台 12月15日発表）

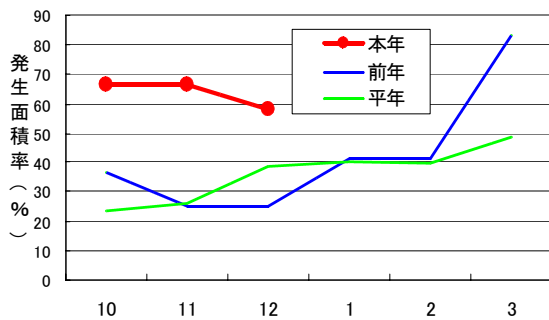


図1 発生面積率の推移

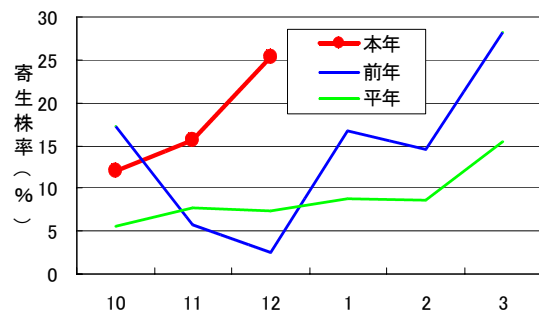


図2 寄生株率の推移

## 5 防除上の注意

- 1) 多発生後の防除は困難となるので、早期発見に努め、初期のうちに短い散布間隔で集中的に防除する。
- 2) 葉裏で繁殖することが多いので、葉裏に薬液が十分かかるように、下葉を摘除した後に薬剤散布を行うなど、丁寧な防除に努める。
- 3) 寄生葉は、ほ場内に放置せず、ビニル袋などに密封するなどして適切に処理を行う。
- 4) 株整理後、葉数の少ない時期に防除を行うと効果が高いため、ほ場内の多発生箇所では、強めの摘葉を行ったのちスポット的な薬剤散布を行うなど密度の低下をはかる。
- 5) 同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。
- 6) 効果のある薬剤等防除その他の詳細については、病虫害防除・肥料検査センター、総合農業試験場生物環境部、各農業改良普及センター等関係機関に照会すること。
- 7) 農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努める。

### 《連絡先》

病虫害防除・肥料検査センター 米良

TEL : 0985-73-6670 Fax : 0985-73-7499

E-mail : byogaichu-hiryu@pref.miyazaki.lg.jp